

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人 香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岐阜県関市平成通2丁目7番12号		
自己評価作成日	令和7年9月27日	評価結果市町村受理日	令和8年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170200345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170200345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・家族様と共に安全で穏やかに過ごしていただける施設を目指しています。最期を安らかに逝かれるよう家族と共に看取りを行っています。地域密着型の施設として地域交流に参加し、ふれあいマーケットでは手作り野菜を出店しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり、訪問看護ステーションとも連携している。24時間体制で医療相談や受診対応が可能であり、総合診療科の在宅担当医の往診を受けながら、利用者は安心して暮らせる環境にある。利用者が中庭で育てた野菜を地元のふれあいマーケットで販売するなど、住み慣れた地域の中で、住民との交流の機会を得ている。共用空間は広く、エアロバイクや歩行用並行棒が設置され、自由に利用できる。家族の希望に合わせて随時面会ができ、利用者と家族の絆を支えている。看取り期には、家族の協力を得て、他の利用者と共に、穏やかに温かな最期の見送りを行なっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域包括ケアシステムの中核を担う」・「私たちはすべての方に喜んでいただけるヘルスケアを提供します」をテーマに、朝礼時には目標の唱和を実施。カンファレンスにて情報共有を行っている。	法人理念とホーム目標を目につきやすい場所に掲示し、職員が身に着ける名札の裏にも記載している。ミーティングや職員会議で、理念と目標を確認し、地域包括ケアシステムの取り組みを中心に、理念を振り返り全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回自治体が開催している木曜マーケットに参加し、地域の方と交流できている。家族会の企画等にて家族との交流も行えている。避難訓練・防災訓練の参加も依頼し、活動に参加して頂くことで交流に繋がっている。	地域との交流も、徐々にコロナ禍前に戻りつつある。月2回の木曜マーケットでは、利用者が育てた野菜を販売するなど、地域の住民との交流機会となっている。今後も、事業所が地域と関われるよう活動を継続していく予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて施設での活動を報告し、各意見を参考に利用者様へのサービスを検討している。避難実施の報告・取り組み等の報告をしている。	運営推進会議は、自治会長、行政、民生委員等の参加を得て、行事や活動状況を報告し意見交換を行なっている。事故やヒヤリハットについても報告している。今後は利用者家族にも参加を呼びかけ、議事録を送付して家族の希望も集約していくとしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼と参加。介護相談員の受け入れをしている。災害時の際の連絡と報告。	運営推進会議への参加を得て、介護保険制度の動向や地域高齢者の情報について、助言や指導を得ている。行政主催の地域ケア会議などには積極的に参加し、他の事業所の取り組み状況について学び、運営に活かしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時には身体拘束排除に向けた説明を行っている。マニュアルを作成し、全職員に対する勉強会も実施している。家族の協力や職員と共に外出できるよう対応している。	身体拘束排除委員会を定期的で開催している。ヒヤリハット事例を検証しながら、マニュアルに沿って学んでいる。離床感知センサーで利用者の状態を把握し、転倒等の回避につなげている。施錠については、危険が伴う以外の施錠は行っていない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を実施し、知識を得ている。都度、虐待について考える機会を設け、虐待防止に努めている。委員会でのアンケート調査 結果をフィードバック	虐待防止委員会は身体拘束排除委員会と同時開催している。虐待に関するマスコミでの話題を題材に話し合ったり、職員アンケートを実施し、調査結果を集計している。管理者は、職員とコミュニケーションを図りながら心身の健康状態を考慮、不適切ケアが起こらないようサポートしている。	

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援については個別ケアとして行っている。成年後見制度については学習会の案内を職員に伝え、興味を持ってもらう。権利擁護に関する制度が活用できるよう研修を行い知識を深めるよう努力している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に面談を行い書類を提示。説明を行い、不安事や疑問点には都度対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情や意見を反映している。満足調査を実施し、頂いたご意見をカンファレンスにて共有し対策を検討している。	毎月発行する「あさひからのお知らせ」には、利用者の写真と日頃の暮らしぶりや行事予定を書き、送付している。利用者の状態に変化が生じた時には、速やかに電話等で家族に伝えるようにしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一か月に一度の全体カンファレンスや委員会活動時に職員の意見や提案等を取り入れている。半年に一回の人事考課面談を行っている。アンケートの実施	管理者も、日頃から職員と同じシフトに入り、コミュニケーションを図っている。月1回のカンファレンス会議等で職員の意見や提案を集約し、真摯に受け止めている。職員面談やアンケート調査なども行い、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	職員の年齢構成や勤務体制について、中・長期的に鑑み、業務の効率化や人員確保などを検討したい。職員の働きやすい環境作りに取り組むことで、より良い利用者支援に繋がりたい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課制度により、目標を持って働く事ができ半期に一度の人事考課面談を実施している。各職員の希望の休みが取得できるよう配慮している。職員への感謝の言葉を伝えられるよう意識している。就労環境の満足度アンケート調査実施	管理者は、職員が連続した休暇を取ることが出来るよう、シフト調整を行ない、職場環境や就業条件の整備にも取り組んでいる。勤務年数の長い職員も多い。休憩室があり、休憩時間も職員間で協力し合っている。毎年、健康診断も実施している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーションを大切にしている。新入職者・中途入職者研修を実施。リーダー研修・メンバーシップ研修・フォローアップ研修等。個々の経験値と力量に合わせた研修の機会の提供。年間を通して研修会に参加への配慮。専門性→感染リンクスタッフ・認知症リンクスタッフ等	職員の力量を把握し、専門職として更にモチベーションを高められるよう、法人の研修には出来る限り参加できるよう勤務体制に配慮している。また、職員自ら研修課題を見つけ、外部研修会に参加することもあり、費用助成などを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関市内でのネットワーク作りに努力している。武儀医師会が主催するCBIC研修会への参加、日本認知症学会研修会等への参加を通して、各事業所の取り組み状況の共有を行っている。ケアマネの年2回の研修参加		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者同士として、居室の清掃や洗濯干し・洗濯たたみを実践やおやつ作りやご飯作りも職員と一緒にしている。本人が必要とするものを一緒に買い出しに行く事や、家族に会う為に近隣の施設と一緒に面会に行く事等おこなっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや希望を傾聴。認知症ケアカンファレンスを実施し、訴えが困難な方等には利用者本位に考えるために本人の思いを汲み取る為の方法をチームで検討しケアの実施へ落とし込んでいく努力をしている。また家族からの想いを聞き取り扱うようにも対応している。	職員は、常にゆとりを持ってケアにあたり、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が難しい人の場合は、仕草や表情から推し量り、家族からの情報も参考にしている。知り得た情報は職員間で共有し、利用者の希望が叶えられるよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人様についてアセスメントを確実にし、定期的モニタリングを実施しケアプラン作成に努めている。他職種との連携もできている。	介護計画作成時には、管理者、ケアマネジャー、担当職員等と共に、家族も計画についての説明を受け、意見交換を行っている。職員は月1回のケア計画検討会議を開催し、目標達成状況の見直しなどを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をモニタリングし、情報共有、職員間の報告・連絡・相談を行い、ケアプランに繋げている。特に個別機能訓練を反映したケアプランの実施をしており、月2回の整形外科医の指示のもと個別リハに取り組んでいる。	業務記録、個別記録はタブレット端末に入力し、全職員で共有している。申し送りは「申し送りノート」及び口頭でも伝えている。取り組み経過や気になる点などは詳細に記録し、ケアでの気付きは、その都度意見交換を行い、情報の共有化を図っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会が可能になり、家族との交流ができています。家族との外出も増え、馴染みの美容室に行かれたり、ショッピングにも行かれています。又他施設へ自身の家族の面会に共に行き、本人様の行き来したい希望にこたえるための支援もしています。	福祉用具が必要と思われる利用者の場合は、家族と相談し専門業者を紹介している。買い物、病院同行、行政の手続等、利用者や家族のニーズに合わせて柔軟に対応している。	

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では、ボランティアの方にも参加していただいている。ご近所の方に避難訓練の参加をして頂くなどし、必要時に助けて頂くよう取り組みをしている。また行事等職員の家族様の参加やペットと触れ合うなど交流を深めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医との連携。月一回の往診にて一人ひとり対応している。又異常時等MCSのアプリを利用することで迅速な対応ができるように対応している。必要時にDrやNsの指示や訪問を受けることができるシステムの導入をしている。	入居時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族が選択している。ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし定期的に往診を受けている。法人の看護師が利用者の健康管理を行いながら、医師と連携を図っている。緊急時の医療支援体制も充実している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や地域連携室と情報交換を行い、状況把握を行い対応している。又毎週金曜日、入退院調整会議を行い利用者の状態の報告を受けることができている。メディカル等電子化オンラインでの情報共有することでスピーディーな対応ができている。	入退院時の手続きは、管理者とケアマネジャーが窓口となり、家族や医療機関と連携しながら情報を共有している。入院中は、利用者の状態の把握に努め、早い段階で退院できるように受け入れ体制を整え、利用者や家族の安心に繋げている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には施設の方針を説明し、終末期のあり方を家族様と話し合い、書面にて提示してもらっている。半年に一度のサービス担当者会議の際、終末期の意向を確認している。その方針に従って支援している。	契約時に、終末期の対応について方針を説明している。家族の意向を確認し、半年毎の計画見直し時には終末期の意向を再確認している。職員は看取りに関する研修を重ねて支援を実施し、看取り後には、家族から感謝の便りが届くことも多い。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	BLS研修会に参加し、知識を得て実践できるよう努めている。急変時の利用者発見時のフローチャートマニュアルの活用 勉強会の開催 個々の職員がMCSの活用ができるように指導している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。地域密着型の施設であり、避難訓練等には地域の方に参加していただき実施できている。具体的な想定訓練を行っている。	夜間想定を含め、年2回消防署協力の下で訓練を実施している。母体法人である病院と合同での避難訓練も実施している。備蓄は3日分確保している。今後は、地域に協力を依頼しながら、地震・水害訓練も取り入れる予定である。	事業所で行う火災訓練には、回覧版などで地域に通知して近隣の協力を得たり、地域主催の防災訓練には事業所として参加を検討するなど、地域との連携強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や更衣・入浴介助の際にはプライバシーの確保に努めている。一人ひとりに合わせた対応が出来るように「生活歴」「職歴」「ご性格」を理解するようにアセスメントを行い、職員間で情報共有し利用者様が安心して生活できるよう心掛けている。	職員は、常に傾聴を心がけ、利用者の自己決定を尊重し、優しく、笑顔で話しかけながら、支援に取り組んでいる。利用者1人ひとりの人格を尊重し、排泄や入浴介助では、プライバシー及び羞恥心に配慮しながら支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのコミュニケーションを大切にしている。本人様の思いや希望を傾聴し、可能な限り対応できるよう努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、希望に添うことが事ができるようにしている。それぞれのペースに合わせた過ごし方ができるよう配慮し利用者の意向で起床や就寝時間を変えている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の食事の準備は職員が行っている。片付けに関しては利用者様にトレー拭きをしていただいている。毎週日曜日には簡単な献立で皆で一緒に作る事やおやつ作りをしている。その際は食材の皮むき切る事、炒めることなど手伝っていただいている。	副食は業者に委託し、ご飯と汁物は事業所で調理し提供している。キッチンからの調理の音や匂いが食欲を刺激し、食事は利用者の楽しみとなっている。利用者の状態に合わせた適切な食事形態で提供し、日曜日は、軽食やおやつ作りを利用者も一緒に行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子カルテにて摂取量を入力し、状態把握ができるようにしている。利用者様のお好きな飲み物やおやつ等を家族様に差し入れの依頼をしている。栄養面に関しては管理栄養士より個別に相談・指導をうけている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度、歯科衛生士の指導を受けている。その指導により利用者に合わせて口腔ケアを行っている。できることを実践してもらい、出来ないところに関しては職員が状態に合わせて口腔ウエットシートやスポンジを使用し清潔の保持ができるように支援している。	毎食後に口腔ケアを行っている。利用者は、自分で出来ることは行い、介助が必要な人には口腔ウエットシートやスポンジを用いて支援している。定期的に義歯洗浄も行っている。治療が必要な利用者は家族に連絡し、早期治療に繋げている。月1回、歯科衛生士の指導を受けている。	

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。排泄パターンを把握し、個別ケアとしてオムツ交換の回数やトイレ誘導を実施している。オムツを装着されていても、トイレで座位姿勢をとる事で排便がみられる場合にはトイレ誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴槽の種類としては、個浴、リフト浴、機械浴と3種類あり、個々の状態に応じて入浴している。基本週2回で曜日も決まっているが、拒否がみられる際には入浴日を変更する等、一人ひとりのよいタイミングで入浴していただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや状況に合わせて、日中でも臥床時間を設けるよう対応している。夜間の良眠を促せるよう、日中の散歩や運動を取り入れている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を把握し、主治医・薬剤師との連携にて服薬支援に努めている。	薬剤管理は管理者が行い、規定の場所で保管している。服薬支援はダブルチェックを行ない、飲み終えるまで見届けている。全職員がルールに沿った服薬支援で飲み忘れや誤薬防止に努めている。薬の変更時には、副作用や事故のないよう利用者の様子を観察している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭での野菜作り・水やり等積極的に参加して頂いている。趣味の生け花に取り組まれている利用者様もみえます。	利用者の今までの経験と残存機能を活かせるよう支援している。玄関の生け花や居室の掃除、洗濯たたみ、毎食の食器の片付け等、役割として担ってもらい、日々の暮らしの生きがいに繋げている。干し柿作りを行い、でき上がった干し柿は皆で食している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に散歩に出掛けています。喫茶店のモーニングに行く機会を設けたり、自治体で開催される木曜マーケットに参加されています。ここで必要な日用雑貨の購入に買い物に出かけたり、銀行への付き添い等本人様の希望に応じて実施、	利用者の健康状態と天候をみながら、近隣の散歩や事業所の畑で野菜作りを楽しんでいる。収穫した野菜は、地元開催のマーケットで販売するなど、地域住民とも交流している。近隣の喫茶店に毎週出掛ける人や、家族の協力を得て外出する人もある。	

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様のおこずかい程度の金額は家族を通して施設にて管理している。職員と共に買い物に出掛けたり、毎週金曜日に移動販売にて利用者様がおやつ等を購入されている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話しがしたいとの希望がある際には電話をかける等対応している。自己にて携帯電話を持参されている利用者様については操作方法等、支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が集まる居間では空気清浄機を設置したり、空気の入替えを行う等、感染対策を実施しています。廊下等には季節感が味わえるよう利用者様と作業を行い作品を飾っている。	玄関には貼り絵や絵画など、利用者の作品を飾っている。リビングは広く、会話を楽しんだり、音楽を聴き歌うなど、好きなことをして過ごすことができる。一人で過ごせる空間作りも工夫している。また、自由に利用することができるエアロバイクや、歩行リハビリ用の並行棒も設置されている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、ソファで利用者様が会話されたり、テレビを観られている。また、カーテンを利用し一人の空間ができるよう対応している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では自宅で使用されていた物等、なじみのある物を持参していただき、安心して生活できる空間作りを心がけている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己にてパンツ交換を行える方には手の届く所にパンツを設置したり、パンツをお渡しする等対応している。移動に関しては手すりを使用し歩行できるよう環境作りを心がけています。		